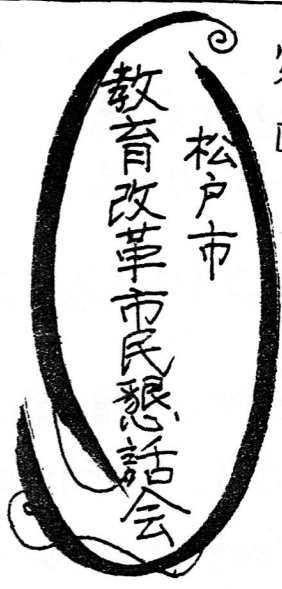


# おこし図書館

12月19日(水)

市議会棟特別委員会室で

第5回



が、開かれました。

報告 青木 和子

7月11日の 第2回目から傍聴  
が許されましたが、毎回12~15名  
の傍聴があり、市民の関心の高ま  
りがかかえます。

主催は、生涯学習本部企画管理  
室。

毎回、教育長をはじめ担当部署  
の職員や教育委員が出席し、一般  
市民の傍聴者と合わせて約30名が

発行  
No. 76  
代表  
青木 和子  
松戸市総台 830-60  
TEL 047-367-5884

会議の進行を見守っています。

懇話会の趣旨は、松戸市の教

育改革プランを作るにあたって、

市の基本方針である「市民との

パートナーシップ」の下に、委員

の公募や会議録の公開など、市

民に開かれた会をもち、来年度

までの2年間で、市への提言を

行うというものです。

その趣旨に期待して傍聴を続

けて来たのですが、残念な事に

論議の焦点も定まらず、各委員

の発言も1回だけの言い、放し

に終わってしまい、とても充分に

議論を尽くしているとは思えま

せんでした。

そこで、12ヶ月に1度の

貴重な会議の場を有意義なもの

にしてほしいと思い 12月13日に  
傍聴人有志7名で教育長と懇話会  
の高倉翔会長あてに要望書を提出  
しました。(裏面右頁掲載)

今回の懇話会は

「教育と自発性」

「学校教育と学校外教育」

というテーマにしよう

話し合われました。

・教育における自主性の尊重は大  
事だが、自由とか自発性、自主性  
ということばがいまいなままで  
話し合われているのではないか。  
・自主性を育むためには、そのプ  
ロセスが大切。生徒自身が物事の  
企画段階から参加する事で自分達  
の責任を認識する。そこに、まさ  
に自主性が育つのではないか。  
・社会生活の最低限のルールや聯  
まで学校で指導しなければならな  
くなっている現状は憂うべき状況。

学校に対して過大な期待を持つのは問題ではないか。子供達をどう育てていくかを親・教師・地域が胸襟を開いて話し合う必要がある。これまで、あまりにも何もしてこなかったのではないか。学校と親が協力して取組んでいこうという論議を、学校や地区単位で、学校が親に投げかけるべき。

・これまでの日本の教育は、全体を引き上げていく事としていたが現在の文部省の方針は、極分化を進める方向にあるようだ。公教育でもう少し個に合わせた教育ができれば、下を引き上げ、上は伸ばす方向に行けるのではないか。

・子供達一人一人が満足できる授業をするためには、先生にとつての余暇時間が必要ではないか。

・図書館や児童館、公民館など、子供達が学校以外で学ぶ場が必要。

・クラスの人数を少なくする事を、私市の方針としての合意事項とし

てほしい。

・機関紙を作って、各地のコミュニティを紹介するなど市民が行動し、声を上げていく必要がある。

この他懇話会のあり方について

・問題がしぼりこめていない

・毎回言い放して終わってしまう

という批判が委員自身からも出されました。



# 傍聴雑感

青木 和子

「教育」というと どうしても学校教育に関する事が多くあります。が、「会の目的と審議の視点」として「生涯学習の観点から本市の学校教育ならびに社会教育等の改革への提言を行う」とある事からも、「生涯学習」についての明確な定義のようなものを示してほしいものです。

ことばだけが、あいまいなまま一人歩きしているように思えます。今回は、2時間という限られた時間内に懇話会発足以来初めて活発な討論が交され、また傍聴人からの意見を交える「意見箱」が設けられるなど、会議が動き始めたという印象で嬉しく思いました。

すべての市民が対象となる「生涯学習基本計画」がどのように進められるのか、これから、会議の行方を見守り、市民の立場から声を届けていきたいと思えます。



◎次回懇話会は2002年2月21日(木) PM 6:00 市役所7階会議室です

◎「おい図書館」からも要望書提出  
市長と教育長あてに要望書を提出しました。(裏面左頁掲載)

2001年12月13日

松戸市教育長 齊藤 功様

松戸市教育改革市民懇話会  
会長 高倉 翔様

### 要望書

松戸市の教育改革プランを市民とのパートナーシップのもとに作っていかうという趣旨で市民懇話会が設置され、これまで4回の会議が開かれました。

私たちは、委員の公募・会議と会議録の公開など、市民に開かれた会の姿勢を市民として高く評価し、その議論の深まりを期待して、都合のつく限り傍聴してきました。しかし残念ながら、これまでの会議では、素晴らしい顔ぶれの委員の方々の発言も1回に限られ、議論が深まるどころまではいっていません。限られた時間の中で、十分な議論をしていただき、すばらしい松戸市の教育改革プランが作成されるよう、市民として下記のことを要望します。

1. 会議に必要な資料等を事前に委員に送付するなど、準備を十分にすること。
2. 会議中の事務局の説明は、手短に簡潔に行なうこと。
3. 委員同士の討論が十分にできるように、効率よい議事進行をすること。

傍聴人有志

青木 和子  
浅井 ゆき  
奥田 郁子  
西山 怜子  
武笠 紀子  
藪崎寿美江  
吉原 里絵

松戸市長 川井敏久様  
松戸市教育長 斎藤功様

## 新しい中央図書館建設に向けての要望書

新しい松戸市立中央図書館建設については、以前より、計画はありながら、実現には到らず、長い年月が過ぎています。

私たち「おーい図書館」は、新しい図書館建設に向けての活動の一環として、各地の図書館見学を続けてきました。その中で、確信したのは、良い図書館があり、それを市民が十分に活用すれば、それが即ち、生涯学習の場だ、ということです。

或る市の図書館運営方針には、「図書館は、生涯学習の場であり、自己学習を行うための条件整備を常に図り、その期待に応えるように努める」とあります。そのように町の住民は、おとこの町に住み続けたい、と思うことでしょう。松戸市も、そのように町であってほしいと、切に願っています。

松戸市には、平成12年3月、松戸市立図書館策定の「市立中央図書館建設基本構想」が存在します。その内容は、とても素晴らしいものです。

長期総合計画の第1次実施計画に示された、新しい図書館建設の実現に向けては、この基本構想を生かし、市の基本方針である「市民とのパートナーシップ」をもつて、速やかに、計画を推進して下さいますよう、要望致します。

2001年12月17日

おーい図書館  
代表 青木和子